

## 「伴走メディア」を目指す

「SDGs ACTION!」が誕生した経緯について教えてください。まず、なぜウェブメディアなのですか？

「SDGs ACTION!」は2020年10月にローンチしました。私自身は、その約1年前にメディアビジネス部門に異動しました。入社以来、記者や論説委員、総局長といった編集系の仕事しかしてこなかったのですが正直「困ったな」と思ったのですが、上司から与えられたミッションは「ビジネス層と朝日新聞ブランドをつなぐメディアを考えてほしい」というものでした。

その時点では紙で、かつ企業人の趣味や余暇を扱う媒体が想定されていたのですが、気になって管理職や役員に就いている友人やかつての取材先を訪ね、日々のメディアとの接点について聞いてみたくです。すると、情報収集はほとんどがネット利用で「紙は読まない」。それも朝夜の通勤時間帯に、スマホやPCでさっとチェックするぐらいだと言うんですね。話を聞いたのは同世代。若い層は何を言わんやです。これは数しな。と。それで、すでに媒体名まで決まりかけていたんですが、上司に「方針を変えてウェブにしませんか」と提案しました。

SDGs に特化したウェブ媒体  
双方向性意識し「アクション」促す

朝日新聞社

メディアビジネス担当補佐

総合プロデュース本部

「SDGs ACTION!」編集長

たかはし まみこ  
高橋 万見子

1988年、朝日新聞社に入社。経済記者として金融、社会保障政策などを担当。月刊誌「論座」副編集長、GLOBE副編集長を経て、2010年から6年間、論説委員として電力・エネルギーや福島復興、情報通信、新技術分野などを担当。2016年から盛岡総局長。2019年9月からメディアビジネス担当補佐。2020年10月から「SDGs ACTION!」編集長を兼務。共著に「金融動乱」(朝日新聞社)。



SDGs報道にいち早く取り組んできた朝日新聞社が、2020年10月に立ち上げたウェブメディア「SDGs ACTION!」。新聞社と企業、自治体、スタートアップ、若者を結び、新たなアクションにつなげている。編集長を務めるのは高橋万見子さんだ。「論座」「GLOBE」の副編集長、論説委員などを歴任し経験豊富な高橋さんに、「SDGs ACTION!」の目指すことから新聞社の変革に至るまで、直撃インタビューした。

など企業社会をとりまく課題を扱うのが得意だし、SDGsにも力を入れていました。読者のレベルも高い。折しも19年ごろから大手を中心にSDGsやESGを意識する企業が増えています。株主や短期利益を重んじる考えから、ステークホルダー全体に目配りし、持続可能で社会の課題解決に役立つ事業体であるべきだ、という経営への変化です。同僚の後押しもあり、SDGsならうちのブランド力を生かせる、と踏み切りました。

「SDGs ACTION!」は名前の通り、SDGsを学ぶだけではなく、「行動」するためのメディアです。批判して終わりではなく、企業や自治体、教育機関、NPOなどSDGsを推進しようとする人たちに伴走し、一緒にあるべき社会を考えていく、あるいは役に立つ情報を共有していけるようなメディアを目指し、スタートしました。

——編集部について教えてください。

スタート時は3人体制だったので、異動や退職があつて専従は今、私と経済部から異動してきた部員の2人体制です。ただ、周囲の同僚に執筆やデスク、グロース戦略やセールスをサポートしてもらっています。編集委員とも連携しています。記事は月に30本ほど

——「SDGsを共創する」ことを目指すメディアと、うたっています。

朝日新聞ブランドが持っている価値

とビジネス層を結びつけるキーワード

は何だろうと、改めて考えてみたくです。弊社はもともと、環境問題や働き方